



Hi!



岩手大学

岩手大学広報誌
IWATE UNIVERSITY

vol.38 OCTOBER
2017.10

INDEX

- P1...工学 GIRLS
- P2...研究紹介
- P3...キャンパスライフ
- P4...センパイ紹介!! ほか
- 理工学部の魅力を知りたいあなたの味方! 岩手大学工学 GIRLS
- 農業を成長産業にする実践農業経営学を目指して 農学部 准教授 木下 幸雄
- サークル紹介 ● GANDAI UPDATES ほか
- センパイ紹介!! ● 検察官検事 和歌山地方検察庁 三浦 孝司さん
- TOPICS ● 教育学部4年佐藤 洸彬さん、フィギュアスケートNHK杯へ! ほか
- Information ● 基金のご案内 ほか

理工学部の魅力を知りたいあなたの味方!!

私たちが聞きました!



岩手大学工学GIRLS



広報室
学生スタッフ

■総合科学研究科農学専攻1年 一守 佳奈子(左)
■人文社会科学部3年 高梨 翔太(右)

志高き!岩手大学工学GIRLS!

「男の子が多い工学部でも女の子が快適に過ごせる環境を作りたい!」「工学部の女子学生を増やしたい!」

平成22年、熱い志を抱く工学部の女子学生が集結して結成した組織が、岩手大学工学GIRLSです。今年で7年目となる工学GIRLSのメンバーは現在24名。女子高校生を対象としたオープンキャンパスでの「女子相談会」、小学校や商業施設、科学館での「サイエンス教室」、高校に赴いての「相談会」など、工学GIRLSは引く手あまた。女子目線ならではの進路相談や、液体窒素を使った実験、ソーラーカーの作製などを通し、「理工学部の魅力」、そして「科学の楽しさ」を多くの人に伝えています。

工学GIRLSの活動はこれだけにとどまらず、学部内のパウダールームやトイレの衛生用品販売機設置を提案し、実現させるなど、女子学生が快適に過ごせる環境作りにも力を入れています。

岩手大学の誇りである『工学GIRLS』。今後も彼女たちの活躍に目が離せません!



▲サイエンス教室での液体窒素の実験

Q どのような活動をしているか教えてください!

科学の楽しさをたくさんの人に伝えるために、さまざまな活動をしています。

たとえば、小さい子供たちを対象としての科学教室や、高校生の女子を対象にしたオープンキャンパスでの相談会を行っています。

Q 様々な活動で、心がけていることは何ですか?

とにかく自分が楽しむことです。そうじゃないと楽しさが伝わらないので、また、答えを与えるのではなく、ぜひそれを自分の力で解決したいと思ってもらえるようにしています。

あと、特にサイエンス教室では、子供たちが参加者なので安全に気を付けています。

Q 活動にやりがいを感じるのはどんな時ですか?

サイエンス教室は自分の専門として「やってきたこと」や「やりたいこと」に近いので、そのような活動に参加できることがやりがいです。

参加した子供たちが「楽しかった」、「ためになった」と言ってくるとやってよかったと思います。

Q 大学進学を目指す皆さんへ、メッセージをお願いします!

理系に進学を目指している女の子は、オープンキャンパスの相談会に気軽に来てください!そこで理工学の魅力を伝えたいと思います!「まだどの大学に行くのが迷っている!」というような場合にも相談してみてください。

ぜひ、岩手大学で好きな分野を学びつつ、奥深い理工学の魅力を一緒に発信しましょう!

「来たれ工学GIRLS!」女子専用相談会

平成29年10月21日(土)に開催されるオープンキャンパスで、工学GIRLSによる女子高校生向けの女子相談会が実施されます。場所は理工学部1号館1階エントランスホールです。女子相談会では、大学生活や受験に向けての悩みなどの相談をすることができます。参加しないとわからない理工学部の魅力を味わいに、ぜひお越しください!



取材協力

工学部 マテリアル工学科3年 佐藤 柚香さん(左)
工学部 マテリアル工学科3年 佐藤 愛里沙さん(右)

「農業を成長産業にする実践農業経営学を目指して」



農学部 食料生産環境学科

准教授 木下 幸雄

岩手県をはじめとする東北地方や北海道では、農業が重要な地域産業です。農業は衰退産業といわれてきた一方で、近年では成長産業ともいわれています。こうした中、農業生産技術だけでなく、農業の経営（ビジネス）的側面がますます重要となってきます。以下では、私の研究の特色について、研究室の歴史も踏まえながら紹介いたします。

1 当研究室のはじまり

現在、当研究室は農学部食料生産環境学科に属して、農業経営・経済学分野の教育・研究を担い、佐藤和憲教授とともに運営されています。研究室のはじまりは、本学農学部の前身である盛岡高等農林学校が創設された時代にまでさかのぼります。同校が設立された間もなく、明治四〇（一九〇七）年頃に農業経済学系の初代教授として伊藤清蔵先生が着任しました。伊藤先生は、日本で初めて農業経営学の専門書『農業経営学』を公刊し、附属の経済農場の責任者も務めました。また、後に南米アルゼンチンに渡り、八、〇〇〇ヘクタールの大牧場を実際に経営したといわれています（海妻矩彦「伊藤清蔵の生涯」岩手県立博物館だより、No.一〇五、二〇〇五年）。

このように、当研究室はわが国における農業経営学のパイオニア的存在であったとともに、学問の実践性を重んじる理念があったと考へてよいでしょう。ちなみに、「農学」とは広辞苑によれば、「農業上の生産技術と経済との原理および応用を研究する学問」(ル

ビは筆者)と説明されており、自然科学系が中心である農学部の中に、社会科学である農業経営・経済学分野がなぜ必要なのかは、農学という学問体系上、明らかなことです。

2 研究の概要

私の研究テーマは大きく二つあり、①農業経営の成長マネジメントに関する理論的・実践的研究、②農業環境政策の制度設計です。これら二つは互いに異なる研究領域に見えますが、農業の産業競争力（経済効率性）と農村環境資源の保全（環境持続性）が日本農業の二大課題であることからすれば、どちらのテーマも重要であり、複眼的に双方を研究することは、現実の農業問題に対処するのに有効な姿勢であると考えています。このように、農業が抱える諸課題に真正面から取り組み、幅広い研究を展開していることが特色です。

とりわけ、一つ目のテーマである農業経営の成長マネジメントに関する理論的・実践的研究については、先代教授である木村伸男先生が手がけた長年の研究を継承したものであり、それをさらに発展させようと努力しているところです。木村先生は、農業経営の企業化と農業者の経営者としての自己革新が日本農業の成長に必要不可欠であると強調されており、その主張の普遍性を時代的・国際的な観点から拡張することを目指しています。



写真1 国際農業経営学会にて研究発表 (エジンバラ大学)

3 農業経営力の国際比較分析

ここで、最近の研究成果の一例を紹介しておきましょう。環太平洋経済連携協定（TPP）をめぐって議論されたように、農業の国際競争力、とりわけ日本農業の中心である稲作の経営力強化が喫緊の課題となっています。そこで農業の現状を経営力の観点から把握するため、日本の主要な稲作経営体とオーストラリアの稲作農場を対象にして、共通のアンケート調査を実施し、国際比較を行いました。

日本と比べて、オーストラリアでは経営規模が格段に大きいため栽培費用が小さく、低価格な農産物を生産できることは、想像に難くないことですが、私の調査結果からは、農業経営の目的や農業経営者の能力でも明確な違いが浮き彫りとなりました(図1)。日本よりもオー

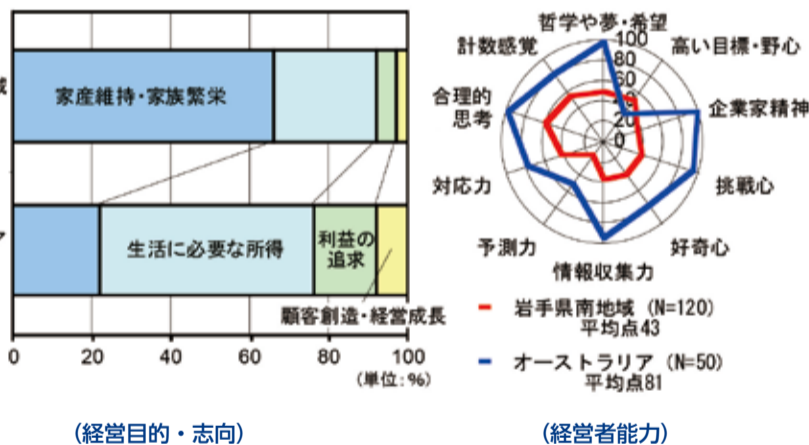


図1 稲作における農業経営力の国際比較

ストラリアの稲作経営のほうが、ビジネス志向が強く、経営者としての能力も圧倒的に勝っていると考えられます。今、国は稲作の大規模化によって国際競争に耐えようと政策を進めていますが、やはり、農業経営の企業化と農業者の経営者としての自己革新が重大な課題であることを示しています。

4 実践農業経営学の構築

こうした比較分析は、研究としては単純すぎるとの評価もあるかもしれませんが、それには実際の農業者からは理解と共感が得られやすいとの大きなメリットがあります。将来に向けて悩んでいる農業者にとって、具体的にわかりやすく経営改善の方向を示してくれるような研究成果は、実践性が強く求められる農業経営学として重要です。昨年、研究成果を織り込みながら、農業者や農業を経営指導する立場の方にわかりやすく伝えるために教科書『農業経営概論』を公刊しました(写真2)。

2. 全国の農業高校や農業大学校で広く読まれ、さらに本学の授業でも活用されています。

人口減少、国際競争、高度な技術進歩、規制緩和など農業の経営環境は激変しています。農業を地域の成長産業にするべく、本学ならではの実践農業経営学をつくらなければなりません。伝統的に学問の実践性を重視する研究室であることを強く意識し、農業経営学という「学問」と「農業経営」教育とを一体化するという姿勢をもって、時代に合った新しい学問を追求していきたいと考えています。



写真2 農業経営学に関する日本初の専門書と最新の教科書

GANDAI UPDATES

岩手大学公式Facebookに掲載している学生取材記事より、反響の大きかった記事を紹介いたします！

f 「7月8日 留学生と市民のガーデンパーティー」

こんにちは、学生スタッフの田代です。盛岡にもいよいよ夏がきましたね。

8日土曜日の盛岡の最高気温は34度でしたが、ぎらぎらと照り付ける太陽と青空のもと、中央食堂前にずらりと並ぶ屋台の数々を発見！

その正体は、岩手大学留学生会と学生サークル「サークルU」などが中心になって行われた「世界の屋台村・留学生と市民のガーデンパーティー」。中国、韓国、台湾、モンゴル、ベトナム、タイなどおよそ10の国と地域が屋台を出店しました。

おいしい料理もちろんですが、たくさんの人で賑わい、屋台を出店した学生、そして来場者のみなさんのきらきらした笑顔がとても印象的でした。

私はロシアとタイの屋台に行ったのですが、なんと学生スタッフとしてのミッションを忘れて食べるのに夢中になり、写真を撮り忘れてしまいました…



当日はアトラクションも行われましたが残念ながら見る事ができなかったで、ぜひ来年も開催してほしいです！

広報第9事務所通信

昨年より始動した学生による広報活動について、この度、名称を「広報第9事務所」とすることに決定！メンバーの田代さんのアイデアで、宮沢賢治の「猫の事務所」という物語がモチーフとなっています。



しばらく地下活動をしてきたメンバーが、2016年、ようやく事務所を構えて活動を開始！自慢の嗅覚や俊敏さを活かしておもしろいことを探し、おはなしを聞きに行く「ふむふむ部門（取材担当）」と、得意の語学で文章の翻訳を行う「もじもじ部門（翻訳担当）」の2つの部門に分かれ、仕事に励みます。

ふむふむ部門 ふむふむ部門とは、岩手大学広報室で記事作成を行う学生スタッフの名称です。私達の仕事はFacebookや岩手大学広報誌の記事作成です。記事はスタッフがそれぞれ、岩手大学に関するテーマを決めます。これまでのテーマには、学食のメニューやイベントの紹介など様々なものがあり、スタッフの個性がでています。過去の記事は岩手大学のFacebookから閲覧できますので、ぜひご覧ください！！広報誌の記事作成はペアで行い、サークル紹介コーナーや1面の取材を行います。さらに、今回から学生スタッフのコーナーもできましたので、ぜひ楽しみにしてください！

もじもじ部門 もじもじ部門のスタッフは、岩手大学のホームページで更新されているニュース、イベントのお知らせなどを日本語から英語に翻訳し、より多くの方に記事を読んでもらうようにしています。一人あたり月2回、スタッフ2名ずつで協力して活動をしています。日本語版の1週間分の記事を要約し、英語版では1つの記事にしています。翻訳された記事は、英語版のホームページのNews & Eventに掲載しています。スタッフが翻訳した記事を読んでみてください！また、英訳したニュースは大学公式Facebookにも掲載しています。こちら是非ご覧ください！



コーナー担当 ■人文社会科学部3年 浅沼 希水 ■農学部1年 米田 莉子

サークル紹介 うたごえサークル

岩手大学にはバンド系の音楽サークルがいくつもありますが、そのなかでも今回取り上げるのは「うたごえサークル」。



(左から)取材に協力してくれた森山さん、上村さん、野田さん、田中さん

野田：主に月1回のサークル内の定期ライブと不來方祭に向けて、バンド毎に活動をしています。メンバーによっては外部のイベントに参加したり、他大学のバンドと交流をもったりしています。

？ 入部のきっかけは？

森山：大学から音楽を始めたいと思っていました。1年生のときに見たサークルオリエンテーションでの演奏と、女子部員が多いことが決め手でした。

上村：高校生のときに観た、ドラム演奏の動画がきっかけで、自分もやってみようと思いました。うたごえサークルは「初心者も大歓迎」だったのでここに決めました。

部長	野田 康太	(岩手県立大船渡高校出身)
副部長	上村 俊成	(北海道旭川北高校出身)
教育学部	森山 香純	(岩手県立花巻北高校出身)
農学部	田中 ゆうこ	(青森県立青森高校出身)

「うたごえサークルはやりたいことが自由にできる場所」という野田部長の言葉にうなずくみなさん。今回の取材で、自分が好きなスタイルで、色とりどりのうたごえを届けている姿が浮かび上がってきました。



ライブでの演奏

野田：もともとバンド系のサークルに入部しようと思っていたのですが、一番和やかな雰囲気だったのでうたごえサークルでした。そこが好きで入部しました。

？ ほかのバンド系の音楽サークルとの違いと魅力を教えてください！

森山：実はうたごえサークルにだけ「弾き語り」があるんです。

田中：あとはロックのほかにも、ポップス、アイドルなど何でもできるのが魅力ですね。

野田：バンド好きな人が集まるというより、音楽が好きな人が集まるサークルだと思います。

サークル紹介 卓球部

今や日本の卓球は世界でトップクラスとなり、日本を盛り上げるスポーツの1つとなっています。今回は岩手大学の卓球部がどのような活動をしているのか伺って来ました。



(左から)取材に協力してくれた岩下さん、金子さん、金さん

？ 卓球部ってどんなサークル？

金子：部としては東北学生卓球連盟春・秋季リーグ戦で上位入賞をすること、インカレに出場することを目標として活動しています。

？ 入部のきっかけは？

金子：中学、高校と卓球をやっており、大学入学後も何か活動をしたかったときに卓球しかないと思って入部しました。

金：中学から卓球を始めて、高校でも続けていました。自分自身卓球が好きなので、大学でも続けたいと思い、入部しました。

岩下：高校の時に岩手大学卓球部の先輩から指導を受けていたなどお世話になり、岩手大学入学後も卓球部の環境や雰囲気がいなと思い、入部したいと思いました。

部長	金子 慎也	(工学部3年)
副部長	岩下 菜美	(秋田県立本荘高校出身)
教育学部	岩下 菜美	(教育学部2年)
農学部	金 健大	(岩手県立盛岡第四高校出身)
農学部	金 健大	(農学部1年)
農学部	金 健大	(岩手県立一関第一高校出身)

インタビューしました！
広報室学生スタッフ

- 人文社会科学部3年 田代 華奈子
- 農学部1年 川戸 菜摘



練習中の様子

？ 卓球の魅力とは？

金子：卓球の一番の魅力はラリーが続くと面白いことだと思います。岩手大学卓球部は、他大学との交流もあり、行事もたくさんあるので、みんなで盛り上げることが魅力です。

金：卓球は最近オリンピックで注目されるようになって、実際にやってみても、コースの駆け引きなど難しくなっていて面白いです。

岩下：卓球は生涯スポーツの1つで、運動の得意不得意に関わらず気軽にできるスポーツです。岩手大学の卓球部は、個性豊かな人たちが集まっていて、毎日活動しているだけでも飽きないところが魅力です。

TOPICS トピックス

大学院獣医学研究科共同獣医学専攻(博士課程)を設置します

岩手大学と東京農工大学は、両大学で設置している共同獣医学科で掲げた共通の教育理念「人類と動物の健康と福祉に貢献する」を更に進化・発展させるとともに、首都圏を含む東日本地域におけるさまざまな獣医学的課題を解決できる、高度獣医学教育研究拠点として共同獣医学専攻を設置します。
 入学定員:5名(岩手大学) 入学時期:平成30年4月

教育学部4年佐藤 洸彬さん、フィギュアスケートNHK杯へ!

教育学部4年の佐藤洸彬さんが、フィギュアスケートのグランプリシリーズ、2017 NHK杯国際フィギュアスケート競技大会 男子シングルに出場することが決定しました。

期日:2017年11月10日(金)~11月12日(日)

会場:大阪市中央体育館(大阪府大阪市港区田中3-1-40)

佐藤さんから抱負コメントが届いています!



「いつも多くのご声援をいただいていることに感謝申し上げます。グランプリシリーズ2017日本大会(NHK杯2017)の日本代表選手に選出されました。大会に向け、ジャンプ(トリプルアクセル、4回転サルコウとトゥループ)の精度を上げるとともに、音楽に乗った軽快な演技をしたいと練習を重ねています。来年2月に韓国で開催されます「平昌五輪大会」出場が最大の目標です。ハードな日程を乗り越え、オリンピック出場を果たしたいと考えております。引き続きご声援方よろしくお願ひ申し上げます。」

「ガンダイニング」が今年も放送開始!

岩手大学を紹介するテレビ番組、「ガンダイニング」の放送が今年も始まりました。10月から12月にかけて、岩手大学の様々な活動や魅力にスポットを当て、学生生活・研究・地域貢献や東日本大震災からの復興への取組などの情報を、地域の皆様に発信していきます。

放送日:10月3日スタート

毎週火曜日18:55~18:58放送

(再放送24:55~24:58)

IBC岩手放送(TBS系列)

岩手県在住の方以外にもご覧いただけるように、後日公式YouTubeに動画を掲載します。



レポーターの木村さん(左)と佐藤さん(右)

Introduction to a senior

センパイ 紹介!!

OB-INTERVIEW インタビュー

第35回



PROFILE

検察官

みうら こうじ
三浦 孝司さん

北海道函館市出身
平成21年3月 人文社会科学部
法学・経済課程 卒業
和歌山地方検察庁 検察官検事

Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

4年間の学生生活の中で一番思い出に残っている場所は中央食堂です。授業終わりに友人と一緒に勉強したり、ゼミの打ち合わせをしたりしていたのはもちろんですが、友人との待ち合わせ場所に中央食堂をよく使っていて、友人と一緒に飯を食べたり、話をしたりして、笑いながら過ごす時間が大学生活で一番多かったと思います。在学当時に中央食堂で友人と過ごした時間は、今でも忘れられない大切な思い出です。

Q2 現在のお仕事に就かれたきっかけはどのようなことですか。

中学生の頃にテレビドラマで弁護士や検事の仕事に興味を持ったことが始まりですが、法律家の道に進もうと思ったのは、在学当時に所属していた刑法ゼミの内田浩先生からの励ましがあったからです。裁判官・検事・弁護士になるためには法科大学院を卒業するなどして司法試験に合格しなければならないのですが、当時、内田先生から「三浦君なら法科大学院でもやっていける!!」と励ましの言葉をいただけたことで、法科大学院へ進学する決心がつきました。振り返ってみると、あのとき内田先生からの励ましがなければ今の自分はなかったと思います。その後、法科大学院での授業や司法修習を通じて、検事の仕事に魅力を感じ、検事への任官を希望することにしました。

Q3 仕事のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

検事は、被害者はもちろん、犯人も含めて様々な人から話を聞くことができます。そして、集まった様々な証拠を基に、犯人に二度と犯罪を繰り返させないようにするためにはどのような処分が適切なのかということ、自分なりに考えることができるのが検事の仕事のやりがいだと思っています。今後も、このことを忘れずに、検事の仕事を続けていきたいと思っています。

Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

4年間の大学生活の中で学んだことや友人・先生方との出会いは一生モノだと思います。充実した大学生活を送ってください!!

Information

岩手大学イーハトーヴ基金のご案内

岩手大学は、多くの皆様からご協力いただいた「岩手大学学生支援基金」「岩手大学被災学生支援募金」等を引き継ぎ、「岩手大学イーハトーヴ基金」を創設しました。本基金は、本学の教育研究や学生支援を幅広く展開することを目的とした「一般基金」と、東日本大震災により被害に遭った学生たちへの修学支援など、用途を特定した「特定基金」で構成されます。

最新の特定基金情報、寄附の申込・払込方法については、お手数ですが、イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。



岩手大学イーハトーヴ基金ホームページ:
<http://www.iwate-u.ac.jp/ihatovkikin/>

【お問い合わせ】岩手大学総務部総務広報課(平日午前9時~午後5時)
 〒020-8550 盛岡市上田3-18-8
 TEL:019-621-6006 FAX:019-621-6014

平成29年度後期授業公開のお知らせ

岩手大学では、下記の期間中、教養教育科目を一般公開いたします。この機会にぜひ岩手大学へお越しいただき、授業をご参観ください。
 日時:11月6日(月)~11月10日(金)
 受付時間:8:30~17:00
 対象:一般市民(制約はありません)

参観料:無料

*事前の申し込みは不要です。当日ご参観前に学生センターA棟1階エントランスホールの受付にお立ち寄りください。講義室のご案内・見学者用名札等をお渡しします。

【お問い合わせ】教育推進機構 TEL:019-621-6554
 E-mail:uec@iwate-u.ac.jp

岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式Facebook、YouTube、学長Twitterを更新中! Facebookには、広報室学生スタッフが取材した記事も掲載しています。ぜひ覗いてみてください。



岩手大学公式Facebook:
<https://www.facebook.com/iwate.u>

岩手大学公式YouTubeチャンネル:
<https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPkSvGSMYwK1aOA>



岩手学長Twitter:
https://twitter.com/iwate_u_ai2016

Hi!こちら岩手大学

岩手大学広報誌 Iwate University vol.38 OCTOBER 2017.10

編集後記

2017年も残り少なくなってきました。暗いニュースもたくさんありましたが、スポーツライミングの伊藤ふたば選手の活躍など、岩手からの明るいニュースもたくさんありました。

盛岡大附属高校が甲子園ベスト8まで行ったこともあり、来年の甲子園が今から楽しみです。

また、私は大谷翔平選手のファンなので、彼の「メジャー挑戦」も楽しみです。

佐藤洸彬君が平昌オリンピックに出場出来るよう応援していきたいと思っています。

Hi!こちら岩手大学 vol.38

岩手大学広報室広報誌専門部会
 2017年10月 発行
 〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
 電話 019-621-6015 FAX 019-621-6014
 E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp <http://www.iwate-u.ac.jp/>
 本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。